

AA 研共同研究プロジェクト

『マルセル・モース研究－社会・交換・組合』平成 20 年度第 1 回研究会

日時 2008 年 4 月 19 日（土）午前 10 時より午後 5 時 30 分まで

場所 AA 研マルチメディアセミナー室（306 室）

内容

1. 渡辺公三（AA 研共同研究員、立命館大学）

「贈与論」他の基本語彙について

2. 真島一郎（AA 研所員）

交換論と社会主義

上記研究会で予定されていた関一敏氏（AA 研共同研究員、九州大学）の報告「「社会学の区分」の基本語彙について」は、同氏に急用が発生したため、当日朝の時点で中止となった。

1. 「贈与論」他の基本語彙について

本報告では、報告者渡辺の手になる「贈与論」の全訳が一同に呈示されたうえで、渡辺が同時に作成した贈与論訳語表（今回は一部のみ）にも沿いつつ、各出席者がそれぞれの専門ないし担当年代の見地から訳文のディテールに関する検討を試み、かつジェネラルなレベルにまで拡張しうる語彙関連の論点を相互に提起する機会となった。

このうち、(I)「交換」、「契約」、「社会的分業」、「歓待」などの基幹語彙系統、および(II)「同業組合」、「国家社会主義」、「物権法」、「本位制貨幣」、「婚資外財産」など、既定の訳語が存在する語彙系統については、「贈与論」における各概念の意義が確認された。これにたいし、今後も検討の余地が残された論点としては、たとえば、*prestations juridiques et économiques*、*contre-prestations*、*prestations totales* などの派生語彙をともなう「*prestation*」の訳語を、「供与」という理解しやすいものとするか、あるいは同時代のフランス共和国による社会介入制度の整備過程との連続性を考慮し、あえて旧来の「給付」のままに留め置くかという問題などが提起された。（真島一郎）

2. 交換論と社会主義

基本的には前回の研究会で真島が呈示した 2 テクストの訳稿および訳語リストをふまえながら、これに新たなコメント（配付資料 A 4 版 4 枚分）が付される報告となった。

とりわけ、モース贈与論にたいする非主知主義的な読みの試みを拓くという自らに課した問題設定のもと、①機械的連帯にみいだしうるデュルケム的分業のアレゴリー、②契約の倫理と感情、③所有と交換、および交換のタイムラグ（信用取引）、④社会国家と社会主義、⑤共産主義（集産主義）という 5 つの論軸をたよりに、テキスト読解の具体的な事例が呈示された。

くわえて、かかる読解にとり不可欠となるテキスト連関として、デュルケム『社会学講義』のうちでも後半の所有権と契約法に関わる箇所、およびデュルケム『社会主義論』の相続と個人主義に関わる箇所から、他にもまして重要とおもわれるパッセージが、報告者によりまとまったかたちで引証された。（真島一郎）